

## 「日本版 GPS への期待」 「アフター NAB ショー東京」

神谷 直亮

最近、日本の衛星通信業界で話題を呼んだのは、日本版 GPS (全地球測位システム) だ。「みちびき 2 号」と名付けられた準天頂衛星 2 号機が、6 月 1 日に種子島宇宙センターから H-2A ロケットで打ち上げられ、6 月中旬には予定の 8 の字軌道に投入された。今後、8 月に 3 号機、年度内に 4 号機が打ち上げられる予定で、待望の 4 機体制が出来上がる。特筆すべきは、アメリカが主導する GPS に「みちびき」が加わることで、測位の誤差が 1m 以内に抑えられることである。4 機体制になれば、6cm の誤差も夢ではないという専門家もおり、高精度測位情報に基づく多様なビジネス展開に期待が寄せられている。しかし、世界的に見ると、アメリカとロシアに加えて、中国がすでに「北斗」と呼ぶ約 20 機の衛星による中国版 GPS システムの運用を始めており、日本はまだ後塵を拝していると言っ

て良い。

話は飛ぶが、6 月は「After NAB ショー東京」に始まり、衛星放送協会と日本ケーブルテレビ連盟の会合に出席することになり、けっこう忙しい一か月であった。

4 月にラスベガスで開催された「2017 NAB ショー」に出展された最新の製品やシステムを東京に集めた「After NAB ショー東京」は、6 月 1 日、2 日に秋葉原の UDX で開催された。わずか 1 か月半後の開催で新鮮味がないと見られがちであるが、けっこうラスベガスで見落としてしまった機器が見つかり有意義な展示会であった。

特に改めて見直したのが、日本コントロールシステム、EIZO、西華デジタルイメージのブースだ。日本コントロールシステムは、フルスペックスーパーハイビジョンレコーダー「DRB8000」と 8K 機器開発者向けのオールインワン解析装置を出展した。

「DRB8000」レコーダーは、8K 120Hz、4:4:4 RGB 映像を非圧縮で 30 分録画ができるハイエンド製品である。

EIZO は、31.1 インチ HDR レファランスマニター「ColorEdge PROMINENCE CG3145」を出展して注目を集めた。担当者は、「ハロー現象や輝度の変動を抑制した製品に仕上がっており、正しい色で映像の評価ができる」と語っていた。発売予定を聞いてみたら、今年 11 月との回答であった。

米 RED Digital Cinema の代理店として知られる西華デジタルイメージは、RED WEAPON 8K S35 を目玉にして出展した。HELIUM 35.4 メガピクセル CMOS センサーを搭載したユニークなカメラだ。「2017 NAB ショー」では、RED のブースを見かけなかったように思うが、見逃したのだろうか。

既述の 3 社に加え会場には、キャノン、ブラックマジックデザイン、リーダー電子、ヴィレッジアイランドなど全部で 48 社が集結して賑わっていた。

キャノンは、「HDR 時代の新 4K カメラ」と銘打った「CINEMA EOS C200」と「C200B」を目玉にして出展した。4K 60p を新フォーマット Cinema RAW light で収録できる。発売については、7 月下旬を予定しているという。

ブラックマジックデザインは、ライブプロダクションスイッチャー「ATEM TV Studio Pro HD」、小型放送用デッキ「Hyper Deck Studio Mini」、ストリーミングを簡単に実現する「Web Presenter」などを出展した。カメラは、フル HD 30p の「Pocket Cinema」と 60p の「Micro Cinema」を売り込んでいた。

リーダー電子は、同社の旗艦製品とも言

える 4K 対応マルチウェーブフォームモニター「LV5490」、ローコスト小型軽量の波形モニター「LV5333」、4K 対応 4 系統 SDI 入力のラスタライザ「LV7390」などを紹介した。「LV7390」には、4K HDR オプションが追加されていた。

ヴィレッジアイランドは、4K8K 60p を TICO 形式で圧縮し SDI ケーブルで伝送できる「VICO-4」「VICO-8」とフレックスマルチビューワーを出展していた。

IP 関連では、テクノハウスがカナダ Evertz 社の「IP Here and Now」でブースを盛り上げた。一方、伊藤忠ケーブルシステムズは、送り返し超低遅延 IP 伝送システムの売込みに余念がなかった。メーカーはターボシステムズで、2017 年夏に発売予定という。実際の遅延を聞いてみたら、4~7 フレームとの回答であった。

衛星放送協会と日本ケーブルテレビ連盟の会合で取り上げられた主なテーマを整理すると、CS110 度全チャンネルの HD 化、2018 年 12 月に始まる 4K8K 実用放送への対応、OTT 事業者との競合対策ということになる。

衛星放送協会の発表によれば、「Takarazuka SKY Stage」「東映チャンネル」「衛星劇場」など、まだ 20 チャンネル以上の番組が SDTV での放送を継続している。今回の会合では、「これらの番組の HDTV 化については、今年中にめどをつける」という目標が示された。また、同協会が公表した有料テレビの契約者数 (2017 年 3 月末現在) は 1,361 万件で、前年比 7 万件的減となっている。契約者減の背景には、ソフトバンクの「スポナビライブ」やパフォーム・グループの「DAZN (ダゾーン)」によるスポーツのライブストリーミングサービスの影響が考えられる。特に、

後者による J1 リーグ全試合の独占OTT サービス開始の反動が大きいと思われる。

このような環境下で、衛星放送協会が切り札として強調したのは、他メディアの追従を許さないオリジナル番組の提供である。

今回の会合で、このオリジナル番組アワード7部門の最優秀賞作品が下記の通り発表され、これらの最優秀賞作品の中から7月13日に大賞が選ばれることになった。

ドラマ番組部門 「ドラマ W 稲垣家の喪主」(WOWOW プライム)

ドキュメンタリー部門 「爆走風塵～中国・激変するトラック業界～」(NHK BS1)

情報番組・教養番組部門 「英国男優のすべて 英国男優はこうして作られる」(AXN ミステリー)

中継番組部門 「ゆる～く深く！プロ野球」(NHK BS1)

バラエティ部門 「KNOCK OUT (ノックアウト) ～競技クイズ日本一決定戦～」(ファミリー劇場)

アニメ部門 「甦るノルシュテインの世界#1 霧の中のハリネズミ編」(イマジカ BS)

ミニ番組・番組 PR 部門 「日本映画チャンネル x サバイバルファミリー 矢口史靖の映画の常識、それほんと!？」(日本映画専門チャンネル)

なお、吉岡忍審査委員長は、6人の審査委員を代表して「全体的に表現の幅が広がった。地上波では制作できない領域にまで拡大したのが特筆すべき点」とのコメントを寄せていた。

CATV 連盟の会合で目立った話題は、2018年12月から始まる高度BS放送(4K8K実用放送)をCATVで再送信するための取り組みである。大きな課題は、再送信用の帯域確保と現行のセットトップボックス(STB)の後継機の投入だ。カギとなる放送帯域の確保については、HFC(光・同軸ハイブリッド方式)からFTTH(光ファイバー接続方式)への切り替えが必要となる。後継STBに関しては、すでにメーカーへの発注が終わっており、2018年夏頃から納入が始まる見通しという。もう一点、BS/CSで認定された新しい左旋偏波の集合住宅におけるIF伝送システムの規格作りも重要な課題として指摘された。日本



写真1 日本コントロールシステムは、8K 120Hz 4:4:4 RGB映像を非圧縮で30分録画ができるレコーダーを出展して注目の的になった。



写真2 EIZOは、31.1インチHDRレファレンスモニター「ColorEdge PROMINENCE CG3145」のデモで注目を集めた。



写真3 ヴィレッジアイランドは、VICO-4 4K 12G/3G-SDI入力、TICO SDIコンバータを目玉にして出展した。



写真4 衛星放送協会の会合では、吉岡審査委員長がオリジナル番組アワード7部門の最優秀賞作品を発表した。

の総世帯数5600万のうちの約3000万世帯がいろいろな環境下でCATV経由視聴していると言われており、CATV連盟の実力が試される。

最後に、6月23日にホテルオークラで開催されたスカパーJSATの株主総会に触れたいと思う。同総会で高田社長が提起した課題は、インターネットを使う動画配信サービスの普及を踏まえての対応策とグローバルマーケットにおける海外衛星オペレーターとの厳しい価格競争であった。具体的には、パフォー  
ム・グループにJリーグの放送権を奪われたのが痛手になっている。同社長は、この巻き返し策として、サッカーを様々な角度から楽しめる新スカパーサッカーセットの販売、54チャンネルのIPリニア配

始を挙げた。なお、スカパーJSAT株主総会会場のロビーでは、同社が放送している4K HDRコンテンツの上映が華やかに行われ、同社の子会社を取り扱っている衛星通信・衛星放送機器やドローンが出展されており、非常に賑やかな雰囲気であった。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

http://www.bizsat.jp

ニッサン新エルグランド4WD  
5名定員  
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載  
車高2.2m以下(地下駐車場可)  
3.6 KVA NMG アイドリング運用  
水圧エコ・ボール4m 搭載  
強化サスペンション  
国内(100V)海外(240V)対応  
IPコントロール  
ハイビジョン映像伝送  
運転席からワンマンオペレーション

設計・製造・衛星通信のことなら  
エーティコミュニケーションズ株式会社  
TEL: 03-5772-9125